

選挙出前授業 広げたい

つなげる可能性を示す作品展が、京都市東山区の知恩院和順会館内のギャラリーで開かれている。

さん(74)が継続的に現地を訪れ、指導を続けている。

山本さんは梅の木の幹を煮出した染料で染める「梅染」を手掛け

つた草木染に取り組んでいて、原料となる植物の採集から染色まで10近い工程を設けて障害者が関わっていると

いう。会場には、初めを築く「郷土菓子研

究社と31人の作家の器」展が2日から、中京区新町通二条上ルのギャラリーYDS(ワ

京都市右京区で選挙管理委員会と連携し若者の政治への関心を高めるために活動する学生団体「右京区学生選挙サポーター」が取り組む小学校での出前授業の方法をまとめた本を、花園大の中善則教授が出版した。事前の打ち合わせ内容や授業の時間配分、画面説明表示用の資料、司会のせりふなどを詳しく紹介する。

花園大・中教授 学生の活動、本に

サポーターは2011 向上のためのPRなどを どものための主権者教育年、区内の大学に通う学 行っている。サポーター 大学生と行政でつくる生を中心に結成。出前授 にアドバイスをしている アクティブ・ラーニング業のほか、期日前投票や 中教授が出前授業を多く 型選挙出前授業」(ナカ開票作業の事務、投票率 の学校に広げたいと、子 ニシヤ出版刊)をまとめ



「先生や保護者の方に読んでほしい、子どもと選挙の話をしてほしい」と話す中教授(京都市中京区・花園大)

「1票の意味 子ら気づいて」

出前授業は、学生が小学校で劇やグループワークを行う。学生が候補者になって「社会保障」や「教育」などを公約に演説し、児童が実際の投票箱で模擬投票をする。その後グループワークで、投票先を決めた基壇や、選挙に参加するうえで大切な事は何かなどを話し合う。

同書では、子どもたちには、自分の推薦候補が敗れても、投じた1票には意味があったことに気づかせ、候補者の意見をきちんと知り、真剣に考えることが大事だと伝えるのが重要と説明する。

中教授は「出前授業が広がり、政的な判断力のある子どもが育っていったら。大人も選挙や投票する意味などを話し合っ

てほしい」と話した。

B5判、73ページ。税込み2700円。

(加藤華江)

保育所体験コーナーで布を使った遊びを楽しむ親子(京都市中京区・区役所)



保育所

著「世界の郷に掲載された菓子」を陶磁器などの個性豊盛り、両方のしんでもらおうした。

アゼルバイ代表する「シ